

授業②

地球沸騰化時代、私たちは何をすべきか

講師 杉山 範子

(東海学園大学教育学部教授

名古屋大学大学院環境学研究科特任教授)



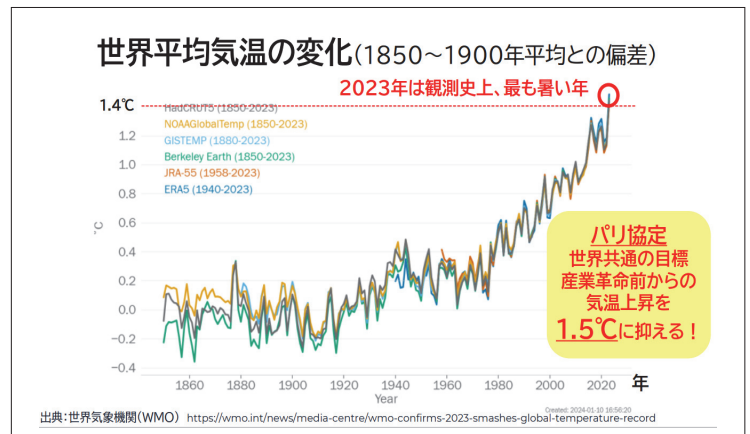
1

2

2024年7月27日
愛・知・未来フォーラム

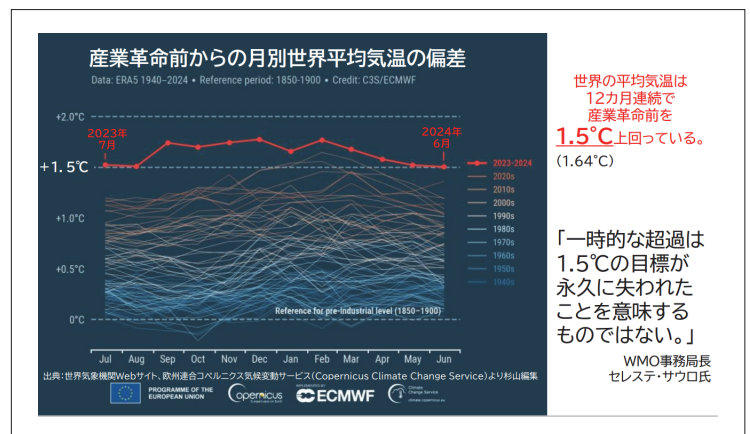
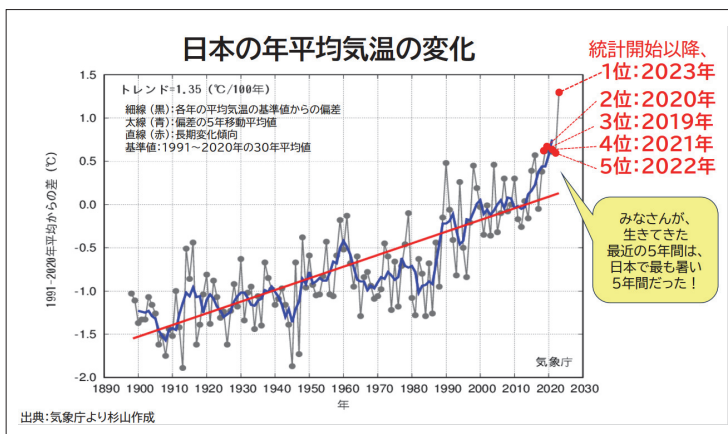
地球沸騰化時代、 私たちは 何をすべきか？

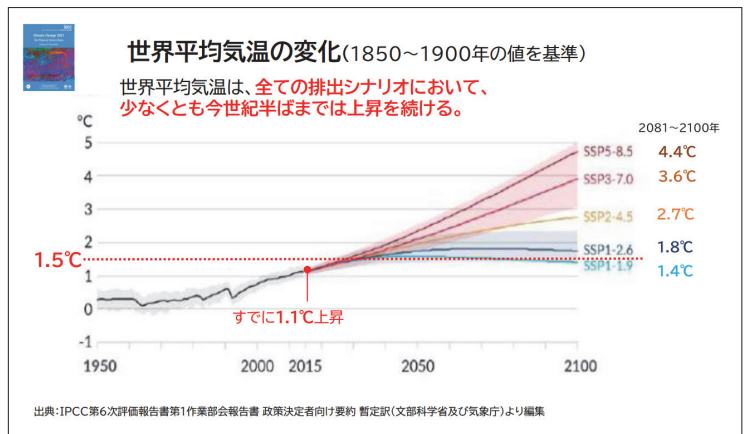
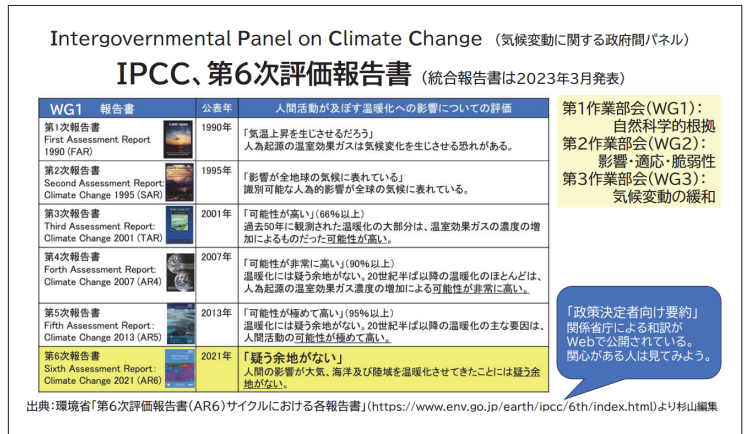
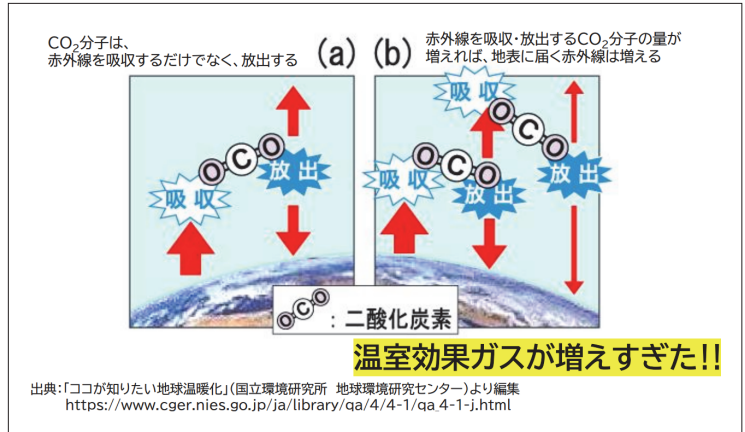
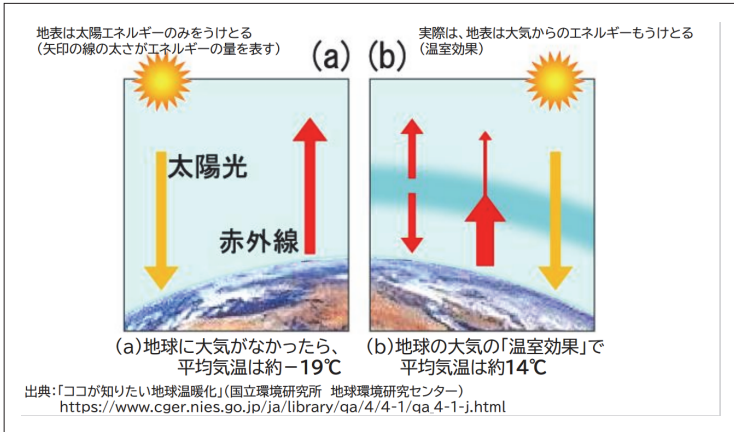
東海学園大学 教育学部 教授
名古屋大学 大学院環境学研究科 特任教授
世界首長監約/日本事務局 事務局長
杉山 範子

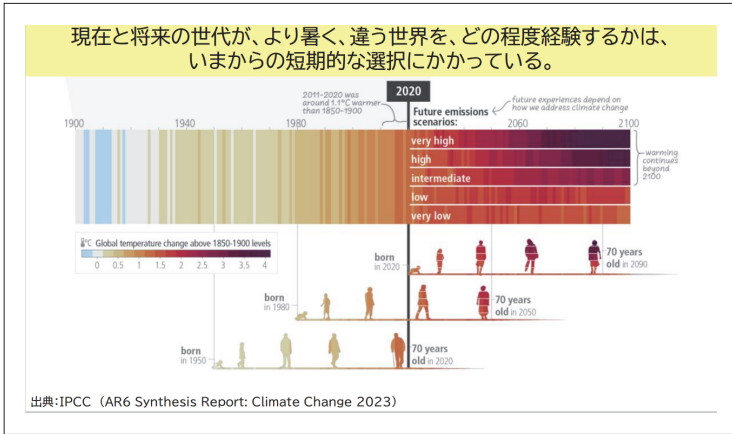


3

4







緩和とは? 2つの適応とは?

原因を少なく 気候変動対策 影響に備える

化石燃料からのエネルギー転換がカギ!

緩和策の例: 節電・省エネ, エコカーの普及, 再生可能エネルギーの活用

適応策の例: 感染症予防, 熱中症予防, 災害に備える, 水利用の工夫

気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること(緩和)が重要です。

緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと(適応)が重要です。

あらかじめ、地域の弱点を見つづける。ピンチをチャンスに!

出典:気候変動適応情報プラットフォーム(https://adaptation-platform.nies.go.jp)

脱炭素先行地域の暮らし・営みのイメージ【住宅・商業・ビジネスエリア】

※適用可能な最新技術を、各地域の多様な実情に応じて選択しつつ活用し、2025～30年に実現を目指すもの

交通: ZEB: ゼロエネルギービルディング, ZEH: ゼロエネルギー住宅(ハウス)

都市マネジメント: LRT: Light Rail Transit 次世代の軌道系交通システム, BRT: Bus Rapid Transit バス高速輸送システム

地域内エネマネ: 断熱改修, 健康・快適な住生活, 断熱改修, 健康・快適な住生活

住宅・建築物: IoT: Internet of Things 「モノのインターネット」

消費: IoT: Internet of Things 「モノのインターネット」

出典: 国・地方脱炭素実現会議(内閣府)資料「地域脱炭素ロードマップ(案)」

脱炭素先行地域の暮らし・営みのイメージ【自然エリア】

※適用可能な最新技術を、各地域の多様な実情に応じて選択しつつ活用し、2025～30年に実現を目指すもの

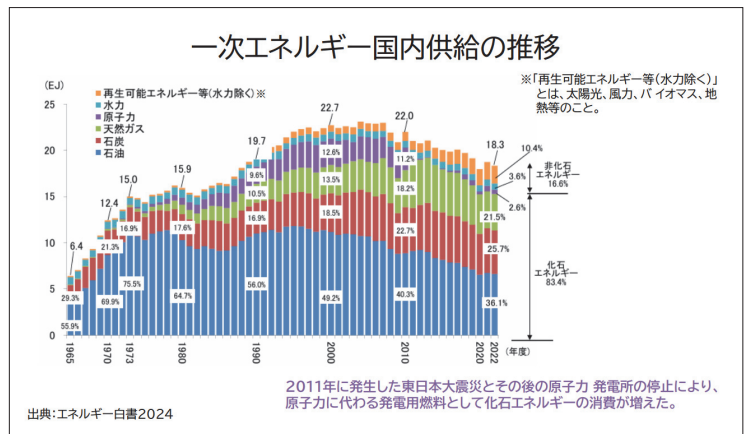
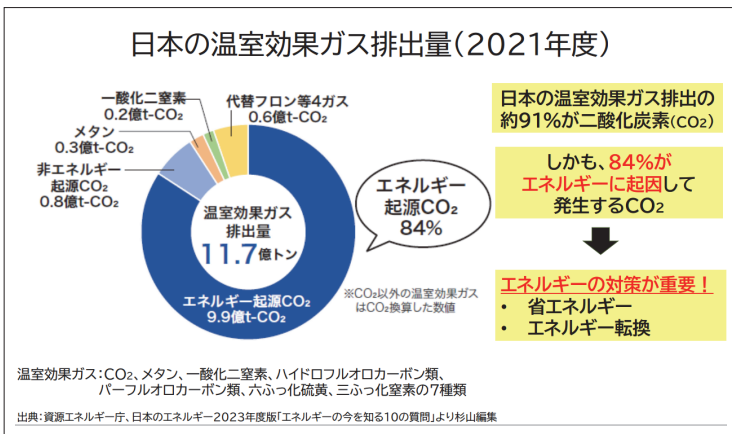
海洋再生エネ: CLT: Cross Laminated Timber 直交集成板の略称、木質系材料

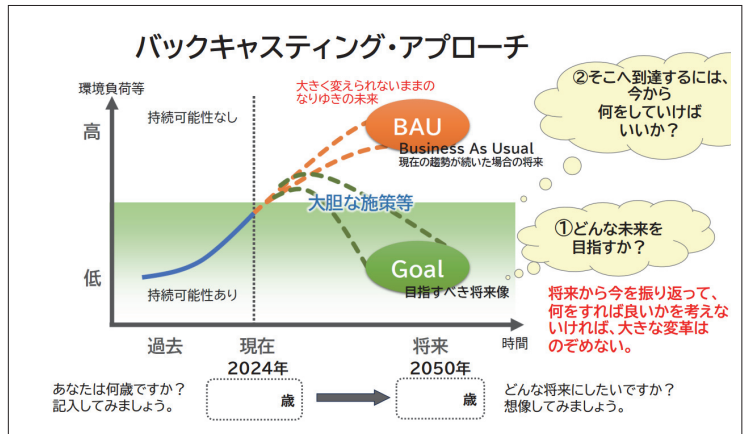
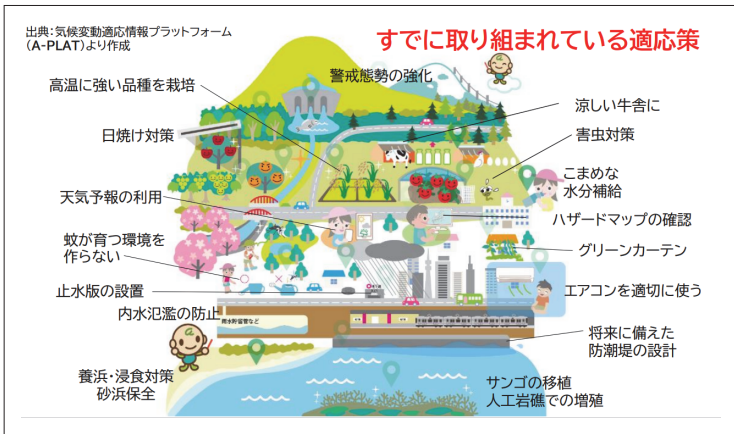
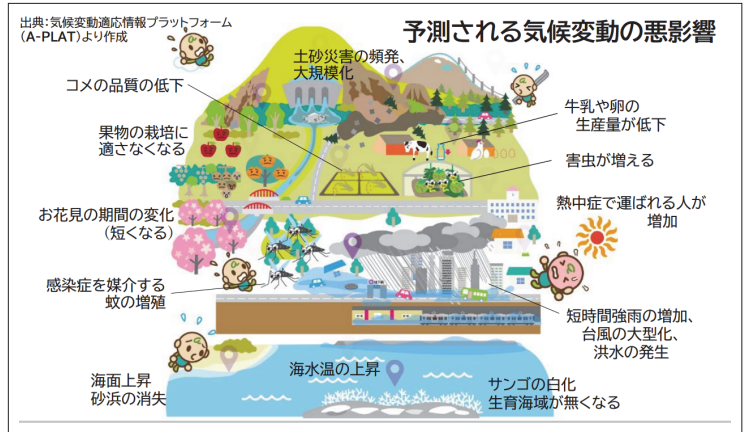
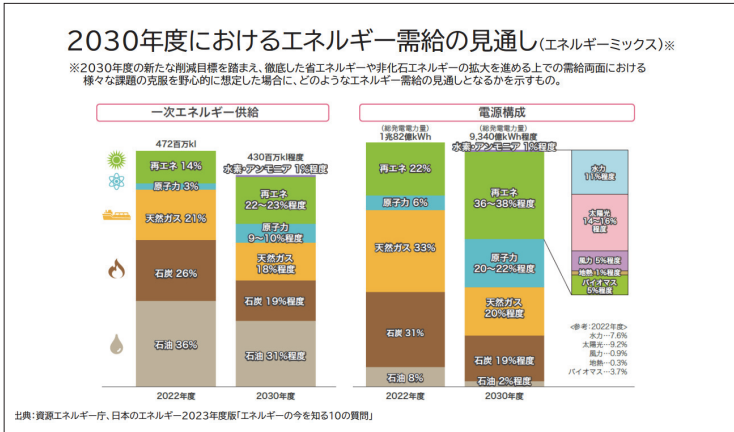
農村再生エネ: Eco-DRR: Ecosystem-based Disaster Risk Reduction 生態系を活用した防災・減災

観光・移住(離島・山間部): MaaS: Mobility as a Service 新たなモビリティサービス

生活/インフラ: V2H/V2L: Vehicle to Home Vehicle to Load 電気自動車(EV)と自宅または直接家電を接続して電力をやり取りする

出典: 国・地方脱炭素実現会議(内閣府)資料「地域脱炭素ロードマップ(案)」





質問 1

国際的にも日本国内も、2050年までに「脱炭素社会」、または、「カーボンニュートラルの社会」を目指しています。どのような社会を創ってあげたいのでしょうか?

あなたが、2050年に実現していきたい社会は、どのような社会ですか?

どうあってほしいか、なるべく具体的に「社会像」を考えて下さい。市長になったつもりで、「まち」や「暮らし」をイメージして考えて下さい。

図:環境省 脱炭素ポータルより引用

質問 2

質問1で考えた「未来の社会像」を実現するために、今からどのようなことをすればよいでしょうか? あなたは、何をしますか?

誰が何をしなければならないのか、そのための資金(お金以外?)はどうしたらよいのか、考えてみましょう。

正解はありません。

エネルギー・交通・物流・食料・水・廃棄物・産業・農林水産業・建築物...様々な観点から自由に考えてみましょう。